

殿様日記 vol.12 リレー茶会

平成 31 年 1 月 21 日

昨年の平成 30 年 (2018) は長岡開府 400 年を迎えた年であった。元和 4 年 (1618) 徳川幕府から新潟県のほぼ中央に位置する長岡の地を治めるよう命を受けて、当時群馬県の大胡 2 代城主であった牧野忠成公は長岡に移封となった。そして牧野が治めた江戸時代 250 年間、他の土地に移ることはなかった。

大正 6 年の長岡開府 300 年祭には長岡茶道会が 3 日間大寄せ茶会を催し盛会を極めたという記事が残っている。

長岡開府 400 年をお祝いする記念行事は、長岡市主催のものから市民の団体が参画する企画まで多くの催しが生まれ実行された。

そのうちの一つに「長岡市民リレー大茶会」がある。それは長岡市茶道文化協会が主催し、茶道の流派を問わず一つになり、長岡市に合併した 10 地域を順番に回り、地域の特徴を出した茶会を催すという企画であった。4 月 15 日から始まり 10 月 7 日までリレーのバトンの代わりに私が茶碗を、愚息が花器を製作し、それらを順送りしながらお茶会が催された。西は三島から東は越路からスタートし、最後は長岡

造形大学に茶碗と花器がゴールした。造形大学のお席は長岡技術科学大学茶道部と長岡大学茶道部の2席であった。

お茶会を初めて開催する地域もあり最初は躊躇されたが、協会会員の協力のもと見事な会が催された。私はすべてのお茶会に参加する予定であったが残念ながら2回欠席した。それぞれのお茶席は初めて訪れる場所が多く、建物、お庭とそれぞれ素晴らしい景色で、長岡にも多くの魅力的な史跡が残っていることが分かった。お茶室のしつらえもお菓子もそれぞれの趣向でおもてなしを受け大変感激した。



愚息製作の花器 花はみつがしわ

私が担当したお茶碗は長岡の陶芸家今千春氏が茶碗を作り、文字のみを私が書いた。

「悟らずに 迷もせずに  
そのままに 只茶を飲んで  
寝たり起きたり」

この歌は長岡藩主 9代牧野忠精公の掛け軸から借用したものである。掛け軸には写真のように左に歌が右に茶碗、茶筌、茶杓が描かれている。忠精公は自ら茶道をたしなみ宗徧流を長岡藩の茶道と定め、長岡城下に広められた。

花器は愚息忠慈が自ら土をひねり今先生指導のもと先生の工房で製作した。皆様はどのような印象をお持ちになっただろう



か。

このリレー大茶会用の茶碗とは別に私個人で「長岡開府400年」と書いた記念の茶碗を製作した。こちらの茶碗は茶道宗徧流の川口宗伊氏に作って頂き、私が文字を書いた。茶碗の内底には「柏」の文字を書き、お薄を飲み終えた時に「柏」の字が見えるようにした。お茶碗に文字を書くのは初めての経験で大変苦勞をした。紙面上に書く書道も難しいが土の茶碗に書くのはそれ以上である。絵の具の濃度にもよるが土がすぐに絵の具を吸ってしまい筆が運びづらい。曲面に書くのは初めてのことで、書き損じはできないし大変なプレッシャーであった。焼き上がってみるとまずまずの出来で、使いこんでいくと味が出てくるとのこと、100年後も使用されているであろうか。



成形された茶碗に文字を書いた

